



高校だより

令和4年度 第1号

教育目標 自主と自律 感謝と共存 礼儀と信頼



〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

TEL. 04998-2-2346

URL <https://www.metro.ed.jp/ogasawara-h/>

言葉は人なり

校長 中村 直樹

4月7日に入学式が無事に取り行われ、17名の新入生が入学しました。都立学校では来賓の方々にお越しいただけない形での実施となりましたが、精一杯お祝いすることが出来ました。3月の修了式では生徒の皆さんが少なく、少し寂しい感じがありましたが、また賑やかになりました。対策を十分に講じながら、これからの学校生活を送りましょう。

さて、何回か「言葉の大切さ」について、お話をしてきました。今回は始業式でも「言葉には不思議な力がある」というお話をしました。人を元気づけることも出来るし、がっかりさせてしまうこともあります。

小笠原では「行ってらっしゃい」といって、内地に帰る方々を送り出します。そして、見送られる人は「行ってきます」と言葉を返しています。「さようなら」と言われるよりも、親しみが湧いて、うれしい気持ちになります。「行ってきます」は、「行きます」と「帰ってきます」を合わせて、「今から出かけます、そして帰ってきます」という再会を誓う気持ちが込められています。昔は旅をするのも命がけだったので、「行ってきます」と言うことによって、「必ず帰ってきます」という誓いをしたそうです。



「ただいま」「おかえりなさい」も大切な言葉です。「行ってきます」の約束を果たした言葉が「ただいま」。それに対して、「おかえりなさい」は「約束を守って帰ってきてくれた。ありがとう」の感謝の気持ちがあらわれています。

中学校のある国語の教科書に、大岡信さんの「言葉の力」という文章が出ています。勉強した人がいるかもしれませんが、同じ言葉であっても発する人が違えば、伝える意味や相手の捉え方も違ってくるといえるものです。

この文章の中では、染色家で人間国宝の志村ふくみさんが、桜の皮で絹糸を染める話を例にしています。志村さんがピンク色に染めた糸から作った着物を見せると、大岡さんは桜の花びらで染めたのだと思ってしまう。実際は、桜の花が咲く直前の桜の木の皮で染めないと、ピンクには染まらないというのです。

大岡さんはさらに考えました。桜は、春になるとピンク色に色づいているけれど、人間の目に見えるピンク色は「花びら」しかない。自分たちが見ているピンク色は、桜の木の一部にすぎないと。そして、それは「言葉の世界でも同じだ」と気がつきます。私たちが見たり聞いたりしている言葉も、それを発している人物のほんの一部であり、言葉を考えることは生き方を考えるのと同じくらい大切であるというのです。

きれいな言葉や正しい言葉を話すために、技術を身につけることはとても大事なことです。本来は同じ言葉であれば、同じ意味として通用しなければなりません。そのために、学校でも国語を勉強しています。しかし、言葉を使うのが生身の人間である以上、使う人によって微妙なニュアンスの違いや、受け取る人の捉え方に微妙な違いが生じることは、已むを得ません。まさに言葉はその人そのものを映し出し、その人の生き方を表現するために、一つ一つ働いていると考えればなおさらです。さらに言えば、言葉の使い方ひとつで、その人そのものが表現されてしまうとも言えるのです。開花直前の桜の樹皮から託されて咲いたピンクの花びらのように、言葉はそれを発する人間によって力を持つように思います。口先だけではなく、常に正しい行いをし、聞き手に信頼を与える言葉こそが、正しい言葉、美しい言葉なのではないのだろうかと思います。言葉は、その人を映し出す「鏡」のようなものだと思います。

学年担任より

○第1学年担任 吉田谷 大

4月7日に令和4年度小笠原高校入学式が行われ、新しく17名が小笠原高校の生徒として加わりました。新入生代表の宣誓の中で、『高校生活の中で困難なことにも立ち向かわなければいけない時が出てくると思います。その時は自分で考え、判断し、行動します。一人では乗り越えられない壁に当たっても、お互いを助け合える頼れる仲間と乗り越えていきます。』と力強く言ってくれました。教える立場であるはずの私よりも堂々とした振る舞いに、早くも私が教えることなど何もないなと感じたことを覚えています。柏木くんだけでなく、他の16名の生徒の立ち居振る舞いも素晴らしく、おかげでよい式になったと思います。そんな入学式から約1カ月が経とうとしていますが、徐々にそれぞれの生徒の性格や興味、課題など、私なりに見えてきたような気がしています。この17名+1のクラスがここからどんな集団になっていくのか、生徒たちがどんな人になっていくのかはこの1年の私の最大の楽しみです。生徒の皆さんが自分で考え判断し行動すること、仲間と助け合うことを通して、高校生活を有意義なものにしていくのをサポートしてあげたいと思っています。これを読んでくれる関係者の皆様も小笠原高校1年生たちの成長を温かく見守っていただけたら幸いです。



○第2学年担任 石黒 寛敬

新学期になって新2年生と担任の私は小笠原高校2年目となりました。色々な場面で1年目と2年目とでは立場が変わってきます。昨年度の流れている分、計画的かつ効率的に動かなければならないこと、新しく入ってきた後輩を気にかけて自分だけでなく全体を見るように意識することなど考えることが多くあります。特に学校生活では部活動や行事でリーダーシップを発揮していかなければならない機会が増えてくるはずですが、ピーデ祭やウインドサーフィン大会、連合運動会では各自が去年経験したことを活かして取り組んで欲しいと思います。ずっと1年目なら気楽に過ごせるかもしれない、そんなことを思うときもありますが、立場が変わることで広がる世界もあります。私自身も今

年は昨年と同じではなく、小笠原高校2年目の職員として数学の授業や部活動と行事のサポートに力を入れていくつもりです。3年生からは来年を任せられる期待の後輩、1年生からは頼れる先輩になれるよう1年間頑張っていきたいと思います。

○第3学年担任 曾我 大悟

新学期が始まりました。新入生が入ってきて、最高学年としての立ち振る舞いが求められます。ピーデ祭や連合運動会、部活動など、あらゆる場所で組織の中心としての活躍が期待されます。自分たちだけではなく全体のことを考えて、企画・実施しなければなりません。今まで先輩たちの背中を見てきて、良い面も悪い面もあったでしょう。良い面はそのままに、悪い面は改善し、これを繰り返していくことで組織は成長していきます。その一番大事な役割を皆さんは担っているのです。

また、進路と真剣に向き合う時期にもなりました。専門学校などは6月からエントリーが始まり、大学の一般選抜は2月、3月まで続きます。自分の受験が終わると開放的な気持ちになってしまい、ついつい学校生活や私生活が緩みがちです。しかし、卒業の間近まで真剣に受験勉強をしている生徒がいることを忘れないでください。最後まで進路活動している生徒を応援して下さい。進路実現の可否に関わらず、悔いのない1年間にし、クラス全員で気持ちよく卒業式を迎えられることを願っています。

教務部より

来賓の方や在校生は不在の入学式ではありましたが、無事に新入生17名を迎え、生徒48名で新年度をスタートしました。

今年度の1学年から新指導要領に沿った新しい教育課程が始まりました。数年かけて各高校で作った教育課程が一斉にこの春始動したということです。小笠原高校でも新1年生は「現代の国語」「言語文化」「公共」「論理・表現」など、上級生には耳慣れない名前の科目に取り組み始めました。これまで3学年で学習してきた情報の科目は「情報I」となり、1学年に入りました。また、小中学校ではずっと馴染みのある「観点別評価」も今年から高校に入り、1年生の通知表にその欄が増えることとなります。

内地の高校では、自由選択科目は10名以上の希望者がいないと開講しないのが普通ですが、本校では一人でも希望者がいる科目はすべて開講されます。教育課程は変わっても、生徒一人一人に目が届く本校の特色には変わりありません。今年度も小規模校の長所を生かしたきめ細やかな教育活動を実践していきます。

生活指導部より

いまだ続いている新型コロナウイルスの影響で、心や体のバランスを崩してしまうという暗いニュースが連日報道される中、昨年度は生活指導部から「おが高の仲間たちで声を掛け合いながら過ごしていこう」という話をしてきました。毎日、顔を合わせる友人・・・その様子が普段と違ったり、疲れている様子を感じたりした時、ちょっとした言葉を掛けることで、相手がホッと安心するのではないのでしょうか。それは大人にとっても同じことと思います。そんな中、生徒の皆さんは声を掛け合い、コロナに負けずに充実した学校生活を過ごす姿を見せてくれました。新しい年に入り、新1年生を迎え、上級生から「コロナで不自由なこともあるかもしれないけど、1年生が少しでも早く学校生活に慣れるようにサポートしていきたい。」という声が聞こえて来て、とても嬉しく思いました。ウィズコロナの環境下、全てが今まで通りには戻らない中ではありますが、生徒たちには人を思いやる心を持ち、今年度も今までにない新しいおが高スタイルを作り上げていって欲しいと願っています。

生活指導部としても、生徒たちの力が存分に発揮できるよう、安全な環境を整えられるよう取り組んでまいります。地域、保護者の方々の御理解・御協力をどうぞ宜しくお願い致します。



進路指導部より

本校では、将来の人生計画に基づき進路選択を決定する力を育てるために、3年間をかけて必要なキャリア教育を実施しています。

進路選択に関しては、離島という立地から内地の都立高校と比べ、実際の見学や体験入学・オープン

キャンパス参加など不利な面があります。大学進学志望者はクラス内での比較よりも、全国での自分の学習レベルを知り学力を充実させていくことが必要です。そのために、本校では各種検定と模擬試験の受験など以下のことを推奨しています。

1. 各種検定

本校では英語検定・漢字検定・数学検定を始めとした各種検定を受験できます。これらの検定は日頃の学習の目標や励みとなり、またその成果を測ることができます。就職や進学の試験の際にこのような資格が有利な場合もあります。各学期1回程度、高校（または中学）で受験できます。

2. 模擬試験

四年制大学や短大、医療看護系の専門学校等への進学を希望する生徒のために、模擬試験を実施しています。模擬試験は全国レベルで自分の力を知る貴重な機会です。継続して受験することによって自己の力の伸びや落ち込み、強みや弱みを把握することもできます。

3. 学校見学・職場体験・会社訪問について

自分が進学する学校は是非実際に見ておきたいものです。夏休み等、内地に旅行等で行かれる際には学校見学を予定に組み込むことを勧めます。時期が合えばオープンキャンパスや学校説明会を開催していることもあり、情報収集のチャンスです。

今年も感染症拡大防止の観点から、学校見学等で制限がかかる可能性があります。夏季休業中での見学が多いと思いますが、本校では教員による引率など、対応を考えています。

4. リモートに慣れることが必要です。

昨年度から、対面による授業に代わりリモートによる授業になったり、学校見学がリモート見学になったりするなど、状況が変化しています。Teams や ZOOM など積極的に使い、慣れることが必要です。

令和3年度卒業生の進路状況（令和4年3月卒業）

- ◆大 学… ・東京都立大学 ・立教大学
・京都外国語大学 ・日本大学
・桜美林大学
- ◆短期大学… ・鎌倉女子大短期大学部
- ◆専門学校… ・国際文化理容美容専門学校
・山野美容専門学校
・日本工学院
・駿台観光&外語ビジネス専門学校
・日本アニメ・マンガ専門学校
・都立職業能力開発センター

離任された先生方より

(教科順)

○吉田 武 (副校長)

人にも環境にも恵まれたこの2年間は、本当に贅沢な時間でした。何を大切にして、どのような生き方をするのが幸せなのかを考えるようになりました。

3月中の土日は1～2時間程度ウエザーステーションからクジラを探して海を眺めていたけれど、通勤時間が自転車で30分とはいえ4月になってからの土日は忙しいです。今も周りから支えられたり応援されたりしながら仕事をしています。

皆さんも周りの様々な大人から話を聞いて、どんな人生を歩むのかを考えてほしいと思います。生活基盤の選択肢に小笠原があるということは幸せなことだと思います。

○澤本 直樹 (国語科)

小笠原高校のみなさん、お久しぶりです。小笠原高校に5年間勤務し、3月末に離任の挨拶をして1ヶ月がたとうとしています。私の生活は大きく変わり、90分近くの通勤時間に、毎日の部活動、1、2年生併せて640人に対して「古典」だけを教える日々です。忙しい中にも充実した日々を送っています。小笠原高校の生徒のみなさんも、それぞれ立場が変わり、環境が変わったと思います。心の準備が追いついていない人もいるかも知れません。そのときは、先生たちやそばにいる仲間を頼ってください。小笠原高校の良いところは、生徒同士はもちろんのこと、先生たちが親身になってくれるところです。保谷高校は生徒が1000人近くいるので、親身になることは難しいです。そういう良いところがいっぱいある小笠原高校を楽しんでください。遠くからみなさんの幸せを祈っています。

○矢内 新太郎 (地理歴史科)

小笠原高校の皆さん、お元気ですか。私は、毎朝、満員の通勤電車で揺られて、なんとか頑張って生きています。

皆さんも、高校を卒業したら、おそらく内地ですよ。待っていますよ、満員電車。その時のことをイメージするために、ぜひ本を読んでください。本を読めば、世界が広がります。私も、毎日の行き帰りの電車で、相も変わらず本を読んでいます。どこにいても、世界を広げることができます。それでは、渋谷の狭い狭い空の下で皆さんのご活躍を願っています。

○山田 駿 (公民科)

お久しぶりです。立川高校の最初の授業の時に、小笠原高校のことを紹介しました。東京から24時間もかかること、船は一週間に一本しか来ないこと、体育の授業は海でやっていること、ほとんどの人が知りませんでした。3年もいればそれは「当たり前」になりますが、立川高校の生徒には新鮮に映ったようです。ちなみに私はもう入港日を気にせず買い物に行くし、Amazonがちゃんと翌日に届く生活が「当たり前」になってしまいましたが、生徒全員の名前を覚え、40人教室での一斉授業が当たりの光景になるのはもう少し先になりそうです。お互い新しい生活ほどほどに頑張っていきましょうね。

○菊池 裕輔 (保健体育科)

生徒の皆さん、お久しぶりです。毎日筋トレに励んでいますか？私も上腕二頭筋を中心にかなりパンプアップしました。プロテインが足りません。小笠原を離れると小笠原が恋しくなるものですね。小笠原でゴロスケ弁当を食し、ウエザーステーションで夕陽を眺め、みんなと過ごした学校生活は私の人生の宝物です。私が伝えたこと、少しでも皆さんの心に残っていると嬉しいです。いつか日本のどこかで会える日を楽しみにしています。カッコいい大人になってください。私も漢を目指します。お元気で、いつも応援しています。

○澤内 翔太 (外国語(英語)科)

台風が接近しているようですね。この文章を書いている時は4月14日です。ちょうど朝のニュースで小笠原への台風情報が流れ、少し心配していました。

私は今、進路指導部でこちらの生徒さんへ進路に関する手助けをしています。松原高校は1学年5クラスの学校です。内地にある他の学校と比べクラス数が少ない学校ですが、生徒の名前が覚えられず、毎日泣いています。

また、授業では英語で話しても日本語で話してもギャグが全くウケず、毎日泣いています。私は何を話せばいいのでしょうか。冷ややかな目を見せながらも笑ってくれた君たちが懐かしいです。

私は毎日泣いていますが、君たちが笑っていれば千キロ離れた私は泣き止むと思うので、どうか素敵な学校生活をお過ごしください。

○須永 貴裕 (経営企画室)

内地に戻り、小笠原の温かさを懐かしく感じながら日々過ごしています。

小笠原では、ほぼ1年を通じて半袖で過ごしてい

ましたが、内地ではコートが必要ではないかという日が時折あり、寒い思いをしています。

現2・3年生には離任式でお話をさせていただいた内容にはなりますが、学校施設の工事・修繕については生徒の皆さんにご迷惑をおかけすることになります。長い目で見れば、今後入学してくる現在の中学生や小学生にも影響が出てくる内容等もありますので、重ねてのお願いになりますが、ご協力の程よろしく願いいたします。

今後、皆様の学校生活がよいものであるよう内地よりお祈りしています。

体調等に気を付けて、健やかな日々をお送りください。

○湯橋 遥 (経営企画室)

小笠原高校のみなさん、こんにちは。お久しぶりです。新しい学校に赴任して3週間が経ちました。こちらに来て驚いたことは、毎日のように「本人が陽性でした」「家族が感染しました」という新型コロナウイルス感染症に関する電話連絡が来ることです。内地ではまだまだ感染症の影響が大きいことを改めて認識させられます。そんな武蔵村山高校ですが、今年度は遠足や体育祭、文化祭等の学校行事がコロナ禍前と同じような形態で行われるということで楽しみも大きいです。小笠原高校のビーデ祭も順調に準備が進んでいると聞いています。見に行くことはできませんが、今までのビーデ祭を超える素晴らしいビーデ祭になることを期待しています。



着任された先生方より

(教科順)

○武藤 衣美 (国語科) (前所属 都立晴海総合高等学校)

はじめまして！武藤衣美と申します。国語科です。一般企業での就業を経て、島に惹かれて日本各地の島で働き、暮らしていました。その後高校教師となりました。前任校は晴海総合高等学校です。晴海総

合高校は「もんじゃ焼き」で有名な月島という場所にあります。下町情緒あふれる一方で、タワーマンションに囲まれていました。このたび、世界自然遺産である小笠原に、縁あって異動してこられたことを嬉しく思っています。小笠原のこと、皆さんのことをたくさん知りたいので色々教えてください。これから、授業や様々な活動を通して、皆さんの力になれるよう精一杯頑張ります。そして、海にたくさん潜り、美しい夕日を見たいです。これからどうぞよろしく願います。

○田中 大成 (地理歴史科) (前所属 都立杉並総合高等学校)

地歴公民科を担当させていただきます田中大成と申します。

東京都世田谷区出身で、わりと狭い生活圏で過ごしてきた私にとって、今回の異動は大きな転機です。小笠原は一度旅行に来たことがあり、自然が豊かで美しいところだということは知っているのですが、ここで暮らし、働くとなると正直なところ不安のほうが大きいです。ですので、周りの皆さんからいろいろなことを教わりながら、少しずつ小笠原に適応し、皆さんに貢献できるように頑張りたいと思います。

よろしく願います。

○佐藤 克 (公民科) (前所属 都立第四商業高等学校)

今までの30年間の人生のうち、19年間は長野県、4年間は東京都、7年間は埼玉県に居を構えていました。つまり、人生のうち26年間を海なし県で暮らしてきました。そんな私の海なし人生について転機が訪れました。こうして、周りを海に囲まれた父島で生活できること、そんな環境で育ったみんなと一緒に様々なことを学んでいけることを心から嬉しく思っています。

今までの30年間を取り戻すように海と戯れ、これからの人生をより豊かにできるように様々なことを学び、少しでもみなさんにプラスの影響を与えられるよう励んでいきたいと思っています。よろしく願います。

○谷野 駿 (保健体育科) (前所属 都立荒川商業高等学校)

4月より小笠原高等学校に赴任することとなりました、保健体育科の谷野駿です。以前から島しょ地区の学校へ興味があり、念願かなって赴任することができました。父島には妻と息子(9か月)と一緒に来ました。先日、家族で初めて島内を車で一周してきました。透き通った青い海や緑豊かな木々、

展望台からの雄大な見晴らしに感動を覚え、父島に来ることができた喜びを強く感じました。

授業でも話しましたが、筋トレ、バレーボール、旅行をすることが大好きです。授業や放課後で皆さんとたくさん関わられることを非常に楽しみにしております。

○竹田 良 (外国語(英語)科)
(前所属 都立紅葉川高等学校)

足立区出身です。大学卒業後はホテルや英会話学校などの民間企業に勤めました。また、ワーキングホリデーを利用してカナダで働きながら英語を学びました。その後、都立高校の教員となり、今年度で11年目です。私が小笠原でしたい事は2つあります。一つ目は、英語の授業での挑戦です。少人数制で、さらにネイティブスピーカーとのティーチングの授業がとても多いという恵まれた環境で、より実践的な英語の授業と、個に応じた教科指導の実践を目指し、生徒の力になりたいです。二つ目は、妻と、二人の息子(6歳と3歳)と、小笠原での生活を思い切り楽しむことです。きれいな海、豊かな自然との触れ合いを通し、健やかに成長してほしいです。家族とともどもよろしくお願ひします。



○石沢 一元 (副校長)
(前所属 教育庁人事部試験課)

4月から副校長として着任しました。よろしくお願ひいたします。

新型コロナウイルスの収束が見通せない中、社会の様々な箇所で、あるいは人々の心の中で変化が起きているように見受けられます。

高校生にとっても、この4月から大きな変化が起きます。まず、成人年齢の引き下げです。4月1日から「民法の一部を改正する法律」が施行され、成人年齢が高等学校在学中の18歳に引き下げられました。関係各所と連携するなどこれまで以上に消費者教育の推進や注意喚起・情報発信に取り組んでいきたいと思ひます。また、今年度の新入生から、新たな学習指導要領に基づく教育課程が実施されます。情報化やグローバル化が進展し、予測困難な

時代を迎える中で、新しい時代に求められる資質・能力を生徒たち育んでいけるように、学校と地域とが連携・協働していけるよう努めてまいりたいと思ひます。

○白倉 佐知 (経営企画室)
(前所属 台東区立金曾木小学校)

小笠原の海を見た瞬間、引っ越し作業の苦勞、前任校での残務整理、厳しい船旅の疲れが全て！吹き飛びました。毎週、土曜の夕方になると、家族でなんとなく「人生の樂園」というテレビ番組を見ていましたが、脳内でその音楽が鳴り止みませんでした。まさに、小笠原は「樂園」ですね。

学事を担当しているのでも、みなさんと接する機会も多いと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

○奥村 健太郎 (経営企画室)
(前所属 建設局)

経営企画室に着任しました奥村健太郎と申します。私は島巡りが趣味の一つで、全国各地の島を旅してきました。その中でも父島はこれまで訪れた島の中で一番魅了され、いつか暮らしてみたいと思ひていました。赴任した日から予想以上の暑さでいきなり洗礼を受けましたが、再びきれいな海や星空を見ることができ、小笠原での生活への期待に胸を膨らませています。経営企画室では主に物品や予算関係を担当しています。皆様より良い学校生活を過ごすことができるよう努めて参ります。よろしくお願ひします。

令和4年度生徒在籍状況(4月7日現在)				
	1学年	2学年	3学年	合計
男子	10	10	9	29
女子	7	5	7	19
合計	17	15	16	48

【お問い合わせ先】

東京都立小笠原高等学校
副校長 石沢 一元

〒100-2101

東京都小笠原村父島字清瀬

TEL 04998(2)2346

FAX 04998(2)2341